

はじめに

大西 広(研究教育支援委員会まとめ役)

ここで皆さまに提供しますものは、優れた経済科学の論文を執筆するための「ガイドブック」です。ホームページでの公開となりますので「ブック」とは言えないかも知れませんが、研究所内で研究教育支援を担う委員会(研究教育支援委員会)がこの春から数か月の準備を行って作成したものです。研究所の理念である「働く人びと」による論文執筆支援はこの間決定的に遅れていましたので、研究教育支援委員会と理事会はこの1年間、以下のような支援活動の強化をはかってきました。

- ① 過去の修了論文のホームページ「研究教育支援」のコーナーでの公開(執筆者の了解のとれたもの)
- ② 『資本論』の基礎的理解を深めるための zoom 講座の開催(当面『時代はさらに資本論』講座として開催。10月から)
- ③ 執筆した論文を公開するためのウェブ上『ワーキング・ペーパー』制度発足の決定
- ④ 個別研究支援やゼミ運営の交流のための「支援担当者会議」の開催

本「ガイドブック」とともに、特にこの①-③の制度もご活用いただき、すぐれた論文執筆をお願いできればと思います。

ところで、本「ガイドブック」では、すぐれた論文を執筆された10名の方の体験的アドバイスも紹介しています。研究教育支援委員会ではそこに、「働きつつ学ぶ権利を担う」ことによって「豊かな現実感覚と理論」を結合させた論文執筆という基礎研的なあり方が十分表現されています。大学等の研究者は自身が「研究教育労働者」ではあっても、社会の様々な分野の現実を直接体験しているわけではありません。つまり「現実感覚」に欠けているわけで、その点では現場で働く労働者の方が研究上、圧倒的な優位に立っています。この優位性を十分に活かすことで、この方たちが優れた論文を執筆しえていることがわかります。これから論文執筆に当たろうと考えておられる皆様には、論文テーマの選択も含め、是非是非、ご参考にしていただければと思います。

ただ、その上で、もちろん、「現場感覚」だけでは論文が書けないことも事実で、『資本論』や『帝国主義論』などの科学的経済学の理論をしっかりと学んでおくことも重要です。これは、研究教育支援委員会のこの間の個別研究支援に関わって痛感したことなので、ここで述べさせていただきたいです。たとえば、金融に関する諸現象を論ずるには『資本論』第3巻の「利子生み資本」論に関する理解は当然の前提となります。上述のように、今度、『資本論』の基礎的理解を深めるための zoom 講座を開催した趣旨はここにあります。「豊かな現実感覚と理論」のどちらをも軽視しない、そうした基礎研の理念としてご理解いただければと思います。

なお、ここから先は私見となりますが、研究教育支援委員会が「支援」と呼ぶものの中には「指導」というべきものも含まれます。現在の基礎研には何十年も前に修了論文を書き上げ、その後何本もの論文や著書などを書かれている自立した「社会人研究者」がおられますので、そうした方々には狭義の「支援」で十分ですが、まだ科学的経済学の学習が不十分な方、論文というものの執筆作法に慣れない方には「支援担当者」らの「指導」を受け入れていただく必要がある場面もあると思います。特に初心者による優れた論文執筆のためのひとつの重要な前提条件としてご理解いただければと思います。

最後には少し私見も述べましたが、本「ガイドブック」を活用され、多くの方が優れた論文執筆に挑戦されることを心から期待します。